

超音波検査の「パニック所見：緊急に対応すべき異常所見」～婦人科編

上原麻理子

抄 録

急性腹症は日常的に遭遇する病態で、しばしば鑑別診断として婦人科疾患があげられる。特に本稿で取り上げる異所性妊娠、卵巣出血、卵巣腫瘍茎捻転はその代表的な疾患で、無症状のまま経過することも少なくない。しかし、一旦発症すると短時間で重篤な状態となり、緊急手術を必要とする、生命予後に関わる、などの可能性があり、緊急対応を余儀なくされる。日常の婦人科診療においては、対象臓器の解剖学的位置と得られる情報量の多さから経膈（経直腸）超音波が使用される頻度が高いが、発症時に必ずしも婦人科を受診するとは限らないため、すべての検者がこれら疾患の特徴と見逃してはいけないサインを理解しておくことが望まれる。

Panic findings: “Abnormal Findings Requiring Urgent Action” in ultrasonography: detailed discussion in gynecological diseases

Mariko Sakata-UEHARA, SJSUM

Abstract

Gynecological disorders are included in the differential diagnosis of acute abdomen. In particular, gynecological disorders such as ectopic pregnancies, ovarian hemorrhage, and torsion of ovarian tumor can remain asymptomatic but can become serious if they progress, so caution is required. It is important to understand the characteristics of these diseases and the signs that should not be overlooked.

Keywords

ectopic pregnancy, ovarian hemorrhage, torsion, acute abdomen, ultrasonography

1. はじめに

急性腹症は、日常的に遭遇する病態である。「お腹が痛い、具合が悪い」と感じた時、すでに婦人科の疾患があることを自覚している、あるいは通院中である場合は、まず婦人科を受診するだろう。したがって、お腹が急に痛くなった時に、救急や婦人科以外の科を受診するのは、「自分の症状の原因が婦人科疾患である」ということを認識していないケースが大半ということになる。本稿では、見逃してはいけない婦人科疾患の急性腹症の鑑別として、異所性妊娠、卵巣出血、卵巣腫瘍茎捻転について解説する。いずれの疾患も、無症状のまま経過し、症状出現時には緊急手術を必要とする、生命予後に関わる、などの可能性があり、設備の整った施設、産婦人科

専門医のいる施設でも緊急対応を余儀なくされることがある。また、技師や専門以外の医師が検査した場合には、直ちに産婦人科医への報告/対応を必要とし、自施設で対応不能であれば対応可能な施設への相談・紹介または搬送が強く勧められる疾患である¹⁾。

婦人科疾患の対象臓器は、主に子宮と付属器（卵巣、卵管）である。画像による形態診断は有用であるが、その解剖学的位置も影響して情報量の多さから日常の婦人科診療の現場では原則として経膈法（経直腸法）が多用される。このため、婦人科の解説書や成書などでも経膈法を前提とした写真や解説が多いことや、通常であれば異常のサインと捉えられる「腹痛」や「出血」は、正常な月経時にも起こりうる生理的変化である。このことが婦人科疾患の

国立成育医療研究センター周産期母性診療センター

Center for Maternal-Fetal, Neonatal and Reproductive Medicine, National Center for Child Health and Development, 2-10-1 Okura, Setagaya, Tokyo 157-8535, Japan

Corresponding Author: Mariko Sakata-UEHARA (ueharasm95@gmail.com)

Received on June 28, 2024; Accepted on September 24, 2024 J-STAGE. Advanced published. date: December 23, 2024